

平成 22 年 4 月 5 日現在

研究種目：若手研究（B）
 研究期間：2007～2009
 課題番号：19710219
 研究課題名（和文） 女性由来組織をめぐるポリティクスとジェンダー—女性の痛みとリスクに焦点をあてて—
 研究課題名（英文） Politics and gender on women's body parts: focus on women's pain and risk.

研究代表者
 日比野 由利 (HIBINO YURI)
 金沢大学・医学系・助教
 研究者番号：40362008

研究成果の概要（和文）：

卵子や胚、中絶胎児など女性身体に由来する組織が、ますます研究や治療に利用されようとしている。女性身体の種類利用においては国家や産業、研究者や医療者の利益が優先され、女性の痛みやリスクは軽視されがちであることが懸念される。医科学技術によって加速する女性身体のリソース化と女性保護について、卵子の利用に焦点を当てて考察した。日本政府の審議会資料の分析とドナー女性の追跡調査論文の検討を行った。

研究成果の概要（英文）：

Women's body parts such as egg, embryo, aborted fetus are more and more consumed for research and therapy. There is concern that in utilization of women's body parts, interests of nation, industry, researchers and healthcare professionals are given priority over women's pain and risk. Researcher focused on egg donation for research and therapy and explored exploitation of women's body parts proceeded by medical technology and therefore women's protection from it. This study conducted analyzing proceeding of government ethical committee in Japan and follow up studies of egg donors in USA.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	500,000	0	500,000
2008年度	500,000	150,000	650,000
2009年度	500,000	150,000	650,000
年度			
年度			
総計	1,500,000	300,000	1,800,000

研究分野：ジェンダー

科研費の分科・細目：ジェンダー・ジェンダー

キーワード：資源化、卵子提供、卵子、胚、再生医学、不妊治療

1. 研究開始当初の背景

卵子や胚、中絶胎児など女性身体に由来する組織が、ますます研究や治療に利用されよ

うとしている。女性身体の種類利用においては国家や産業、研究者や医療者の利益が優先され、女性の痛みやリスクは軽視されがちで

あることが懸念される。本研究では、医科学技術によって加速する女性身体の資源化について、卵子の利用に焦点を当てて考察することにした。

(1) 研究用卵子提供

再生医学研究では、将来の産業利用を視野に入れた国際的な特許競争が行われている。例えば韓国のクローン胚研究は、国家的なプロジェクト研究として展開され、後にねつ造が明らかになった研究者によって売買や強引な同意取得などにより二千個以上もの卵子が浪費されたことは記憶に新しい。

韓国での成功を受け、日本政府の審議会でも、研究利用のための卵子をどのようにして入手するかについて、議論が行われた。その一つとして、体外受精を行う不妊治療施設では、女性の卵子を多数扱っていることから、治療が成功し、廃棄することが決定した余剰胚を再生医学研究に用いることが審議された。しかし一方では、不妊患者の卵子は質が悪いと考えられたことから、健康な女性の卵子が必要とされ、難病患者の家族女性からボランティア提供を受けるといった案が審議された。

(2) 不妊治療における卵子提供

不妊治療では、第三者から卵子提供を受けて妊娠・出産することが、治療の一環として行われている。卵子の老化に対して提供卵子を用いた治療は有効であり、高齢女性でも出産が可能になる。卵子提供は有償か無償か、不妊カップルに対して匿名か非匿名かなどで様々なタイプに分類することができる。

日本では厚生労働省の指針によって、匿名第三者から無償で提供を受けることが認められているが、この方法では実質的にドナーを確保することは難しい。一方、米国では有償・匿名で卵子提供が行われている。このことから、学生や主婦などがローンや学費の支払いのために卵子を提供する場合も少なくない。海外の経験から不妊治療における卵子提供がどのような問題を含んでいるかを検討する必要があると考えられる。

2. 研究の目的

先端生命科学技術における女性身体の資源化をめぐるポリティクスを明らかにし、女性保護の方法について検討する。

3. 研究の方法

(1) 再生医学研究における未受精卵利用を

めぐるポリティクスについて、韓国のES細胞ねつ造事件の文献的調査を行うとともに、日本での研究用卵子提供をめぐる議論について、政府審議会資料の議事録を分析した。

(2) 有償匿名で卵子提供を行っている米国の医学・疫学論文から、卵子提供者の追跡調査を検討した。

4. 研究成果

(1) 研究用卵子提供について

韓国のクローン胚研究では、研究者は韓国社会で熱狂的な支持を受けており、自発的に卵子提供を申し出た女性も多数存在したとされる。これらは、韓国の男尊女卑的な文脈においては、女性たちにとって国家社会に貢献し、自尊心を高めてくれる行為であると考えられた。

日本では、難病患者の家族女性からのボランティア提供が審議された。だが家族女性に圧力がかかることが考えられたため、結局、無償ボランティアによる提供は認められなかった。しかしその議論の内容に関して、様々な問題点を指摘することができる。例えば、ボランティアによる卵子提供は、生体肝移植と比較して医学的リスクが低いという主張がなされた。この主張には二つの問題点がある。ひとつめは、研究と治療を混同していることである。ふたつめは、恣意的な比較参照軸の設定が見られることである。このように、提供の当事者となる女性の権利擁護や提供者保護の観点から見て、問題となりうる議論が散見された。こうした審議会の場に卵子提供の当事者の権利擁護ができる人間が必要であると考えられた。

(2) 不妊治療における卵子提供について

卵子提供者の追跡調査においては、ほとんどの研究で、米国の卵子ドナーの大多数が、卵子提供に満足しているという結果が得られた。しかし、それらの研究は、回収率が低く(50%未満)、選択バイアスがかかっていると考えられた。また、繰り返し提供者も少なからず含まれていること、ドナー候補者は心理検査や面接等により予めセクションされていることなどから、満足度が高い対象者に偏りが生じている可能性が指摘できた。今後、出産年齢の高齢化が進むにつれて、提供卵子による治療はますます増えていく可能性がある。海外のエビデンスの検証から、卵子ドナー女性の権利擁護や保護について、リスクを過小評価することなく検討していく必要性があることが示唆された。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 24 件)

1. Higuchi M, Hatta K, Homma T, Hitomi Y, Kambayashi Y, Hibino Y, Matzuzaki I, Sahara S, Nakamura H. Association between altered systemic inflammatory interleukin-1 β and natural killer cell activity and subsequently agitation in patients with alzheimer disease. *Int J Geriatr Psychiatry* (in press). <査読有>
2. Takaki J, Minaura A, Irimajiri H, Hayama A, Hibino Y, Kanbara S, Sakano N, Ogino K. Interactive Effects of Job Stress and Body Mass Index on Over-eating. *J Occup Health*. 2010; 52(1): 66-73. <査読有>
3. Takaki J, Tsutsumi A, Fujii Y, Taniguchi T, Hirokawa K, Hibino Y, Lemmer RJ, Nashiwa H, Wang DH, Ogino K. Assessment of Workplace Bullying and Harassment: Reliability and Validity of a Japanese Version of the Negative Acts Questionnaire. *J Occup Health*. 2010; 52(1):74-81. <査読有>
4. Hibino Y, Hitomi Y, Kambayashi Y, Nakamura H. Exploring factors associated with the incidence of sexual harassment of hospital nurses by patients. *J Nurs Scholarsh*. 2009 ; 41 : 5-12. <査読有>
5. Hibino Y, Takaki J, Kambayashi Y, Hitomi Y, Sakai A, Sekizuka S, Ogino K, Nakamura H. Relationship between Noto-Peninsula earthquake and maternal postnatal depression and child-rearing. *Environ Health Prev Med*.2009;14(5):255-260. <査読有>
6. Kambayashi Y, Binh NT, Asakura HW, Hibino Y, Hitomi Y, Nakamura H, Ogino K. Efficient assay for total antioxidant capacity in human plasma using a 96-well microplate. *Clin Biochem Nutr*.2009;44(1): 46-51. <査読有>
7. Hibino Y, Takaki J, Kambayashi Y, Hitomi Y, Sakai A, Sekizuka S, Ogino K, Nakamura H. Health impact of disaster related stress on pregnant women living in the affected area of the Noto-Peninsula earthquake in Japan. *Psychiatry Clin Neurosci*. 2009; 63 (1) : 107 - 115. <査読有>
8. Kambayashi Y, Ogino K, Takemoto K, Imagama T, Takigawa T, Kimura S, Hibino Y, Hitomi Y, Nakamura H. Preparation and characterization of a polyclonal antibody against brominated protein. *Clin Biochem Nutr*. 2009;44(1):95-103. <査読有>
9. Sagara T, Hitomi Y, Kambayashi Y, Hibino Y, Matsuzaki I, Sasahara S, Ogino K, Hatta K, Nakamura H. Common risk factors for changes in body weight and psychological

- well-being in Japanese male middle-aged workers. *Environ Health Prev Med.* 2009;14:319-327. <査読有>
10. 日比野由利. 看護職の地位とセクシュアル・ハラスメント. *日本予防医学会雑誌* 4(1):7-10,2009. <査読有>
 11. 日比野由利. 卵子提供と女性保護-不妊治療における卵子ドナーの満足度調査(米国)から. *日本予防医学会雑誌* 4(3): 15-21, 2009. <査読有>
 12. 日比野由利. 自尊感情とリプロダクティブ・ヒストリー. *女性心身医学* 14(1):117-122,2009. <査読有>
 13. 黒田かおり、日比野由利、中村裕之. 能登半島地震による妊産婦への健康影響. *日本予防医学会雑誌* 4(1):3-12, 2009. <査読有>
 14. 山崎真平、人見嘉哲、神林康弘、日比野由利、中村裕之. スギ花粉症特異的 QOL を用いたスギ花粉症予防・治療法の経済的評価. *日本予防医学会雑誌* 4(3):29-34, 2009. <査読有>
 15. Hibino Y. Postabortion spirituality in women: insights from participants in the Japanese ritual of mizuko kuyo over the Internet. *Japanese society of Psychosomatic Obstetrics and Gynecology.*2008;13(1・2):73-85. <査読有>
 16. 日比野由利、中村裕之. 子どもの共感性と三世代交流プログラムによる変化. *思春期学* 26 (4): 421-427, 2008. <査読有>
 17. 日比野由利、中村裕之、人見嘉哲、神林康弘. 地震災害における若い妊産婦の心と体の問題. *思春期学* 26(2):208-212,2008. <査読有>
 18. 中村裕之、神林康弘、日比野由利、人見嘉哲. 思春期におけるトラウマと PTSD に関する疫学. *思春期学* 26(2):187-193,2008. <査読有>
 19. 神林康弘、人見嘉哲、日比野由利、中村裕之. 抗酸化物質 1: ビタミン C (アスコルビン酸). *日本予防医学会雑誌* 3(2): 3-12, 2008. <査読有>
 20. Hitomi Y, Okuda J, Nishino H, Kambayashi Y, Hibino Y. Takemoto K, Takigawa T, Ohno H, Taniguchi N, Ogino K. Disposition of protein-bound 3-nitrothrosine in rat plasma analyzed by a novel protocol for HPLC-ECD. *J Biochem.*2007;141(4):195-502. <査読有>
 21. Takemoto K, Ogino K, Wang DH, Takigawa T, Kurosawa CM, Kambayashi Y, Hibino Y. Hitomi Y, Ichimura H. Biochemical characterization of reactive nitrogen species by eosinophil peroxidase in tyrosine nitration. *Acta Medica Okayama.*2007; 6(1): 17-30. <査読有>
 22. 日比野由利. 中絶の語りからみた女性の自己変容とケアの可能性. *母性衛生*

48(2):231-238,2007. <査読有>

23. 日比野由利、荻野景規、中村裕之. 身体経験とスピリチュアル・ウェル・ビーイング. 北陸公衆衛生学会 34(1):8-14, 2007. <査読有>
24. 日比野由利. 女性身体利用の新しい局面-未受精卵のボランティア提供について-医学と生物学 151 (11):373-381,2007.<査読有>

[学会発表] (計 7 件)

1. 日比野由利・高木二郎・清水裕士. 認知的ソーシャル・キャピタルが主観的健康感に与える影響-文脈効果 (contextual effect)に注目して-. 第 82 回日本社会学会、2009 年 10 月 12 日、立教大学池袋キャンパス (東京都) .
2. 日比野由利. 利用される卵子と卵子観・女性観-人体資源の供給源としての女性-. 第 26 回石川県母性衛生学会学術総会、第 24 回北陸母性衛生学会学術総会、2009 年 7 月 25 日、金沢大学 (石川県).
3. 日比野由利、中村裕之. 卵子提供の問題点. 第 25 回石川県母性衛生学会、第 23 回北陸母性衛生学会、2008 年 7 月 26 日、金沢大学 (石川県).
4. 日比野由利、関塚真美. 能登半島地震からみた妊産婦への支援体制. 第 78 回日本衛生学会総会、2008 年 3 月 30 日、熊本市民会館 (熊本県).
5. 日比野由利、中村裕之. 妊産婦への健康影響と支援体制. 金沢大学能登半島地震

学術調査部会 第二回報告会、2008 年 3 月 8 日、金沢大学 (石川県).

6. 日比野由利、秋丸国広、弘田量二、人見嘉哲、神林康弘、中村裕之. 児童の共感性の発達および生活態度・身体計測値と関連性 - 三世代健診データから. 第 66 回日本公衆衛生学会総会、2007 年 10 月 24 日、愛媛県民文化会館 (愛媛県) .
7. 日比野由利、中村裕之、弘田量二、秋丸国広. 三世代ふれあい健診による小・中学生の共感性の変化と健康観・向社会的活動. 第 26 回日本思春期学会総会、2007 年 8 月 25 日、東京慈恵会医科大学西新橋校 (東京都) .

[図書] (計 2 件)

1. 金沢大学情報グループテキスト編集委員会(松本豊司、安部聡一郎、児玉昭雄、中村正樹、中山和也、日比野由利、柳在圭)『e-learning を利用した情報処理基礎』学術図書出版社、2009.
2. ティアナ・ノーグレン著、岩本美砂子監訳、塚原久美、日比野由利、猪瀬優理訳. 『避妊と中絶の政治学-戦後日本のリプロダクション政策-』青木書店、2008.

[その他]

ホームページ等
生殖テクノロジーとヘルスケアを考える研究会
http://tech_health.w3.kanazawa-u.ac.jp

6. 研究組織
(1) 研究代表者
日比野 由利 (HIBINO YURI)
金沢大学・医学系・助教
研究者番号：40362008
(2) 研究分担者
該当なし

(3) 連携研究者
該当なし